

日頃から災害に備えましょう

②③～旅先での危機管理～

NPO 法人環境防災総合政策研究機構
理事 宇井 忠英



図 総務課危機管理室 (市役所2階 ☎23-3331 内線465)

旅先での災害に備える

5年前に東日本大震災が発生したとき、首都圏では鉄道輸送が止まってしまいました。その影響で、300万人もの帰宅困難者が発生し、一時避難施設に入り切れず、屋外で一夜を明かさざるを得ない人が出てしまいました。また、東北地方では、緊急停止した列車が津波に巻き込まれずに済んだものの、寒い中、一晩車内で救助を待った人がいました。

地震災害は前触れなく襲ってきます。今回は、こうした事態に備えて、用意しておく便利な防災用品を紹介します。

身の安全を守る

非常事態に陥ったときは、けがをしないように備えるほか、不安にならないようにすることも重要です。

夜になっても明かりがないのは不便なので、懐中電灯を用意しましょう。単四電池2本を使うペンシル型の懐中電灯は軽くて便利です。最近では、ボタン電池を電源としたLEDの懐中電灯も安く手に入ります。電池は消耗しないよう取り出しておきます。

地震が発生すると、破損した建物の内部や非常停止したエレベーター

内に閉じ込められてしまうことがあります。大声をあげて助けを求め、代わりに役に立つのが笛です。現在、LEDライトが付いていてキーホルダーに付けるものやストラップの代わりに携帯電話と一緒に持ち歩ける製品など、多様な製品があります。



ペンシル型(上)、LED(中)の懐中電灯とLEDライト付の笛(下)

がれきが散乱する市街地は、危険物やほこりが多くあります。薄手の手袋を着用することで、けがを防止することができます。小さな傷を守るためのカット絆創膏やほこりよけのためのマスクも欠かせません。

また、清潔さを保つためにウエットティッシュも必要です。タオルは防寒用や負傷したときの止血用にも使えます。コンビニなどで売っている薄くて軽いレインコートは、雨よけになるほか、防寒具や敷物の代わりとしても使えます。

災害の情報を得る

災害が発生したときは、どのような災害が起こっているのか、範囲はどのくらいか、使える交通機関はどこかなど、報道機関が発信する情報を自分で得ることが必須です。周囲の人々からの伝聞は、伝わる間に事実と想像が混ざりあって変化してしまうので、信頼度が低くなってしまいます。

普段持ち歩いている携帯電話やスマートフォンで受信できるワンセグテレビは、受信可能エリアに制約がありますが、携帯ラジオは確実に情報を得ることができます。名刺サイズのFM・AM兼用携帯ラジオは、イヤホンとボタン電池を含めても重さが50g程度の優れたものです。



名刺サイズの携帯ラジオ

得た情報を記録するためにメモ帳と筆記用具も欠かせません。家族や知り合いなどの緊急連絡先のリストもメモ帳と合わせて入れておきましょう。

携帯電話やスマートフォンの電源切れを防ぐために、単三の電池を使った充電器が製品化されていますので、一緒に持ち歩くことをおすすめします。



携帯電話充電器

体力を維持する

緊急避難施設にたどり着いても備蓄されている非常食や飲み水をもらえらるとは限りません。体力を維持するために、栄養調整食品や飴、チョコレートなどを持ち歩きましょう。また、ティッシュペーパーやペットボトル1本程度の飲み水は、常に

持ち歩く習慣をつけましょう。一時避難施設に入って食べ物や配布されたときのために、スプーンや割りばしがあると便利です。

その他



普段持ち歩いている財布には、現金と一緒に保険証や運転免許証、クレジットカードなどが入っているとありますが、災害が発生すると停電が復旧するまでクレジットカードは使えないので、現金が欠かせません。予期せぬ帰宅の遅れで、常用している薬が尽きると困ります。調剤薬局で薬と一緒にもらえる説明書には、処方された方の氏名や調剤日も記載されているので、お薬手帳の代用品として緊急事態のときに処方してもらうのが簡単になります。

慣れていない地域で被災したときは、町の情報が書かれた地図があると重宝します。携帯電話のバッテリーを温存するためにも、印刷したものを1枚持っているといいでしょう。

今回紹介した防災用品は、いつでも簡単に持ち歩けるように「軽くてかさばらないもの」をそろえるのが鉄則です。まとめてポーチなどに収め、旅行用のカバンやバックパックに入れて持ち歩きましょう。私が持ち歩くように心がけているものの総重量は700g程度です。これに加えてペットボトルの飲み物が1本あれば安心です。

皆さんも旅先での災害に備えて、防災用品の準備を始めませんか。



全てポーチに入れた非常用品